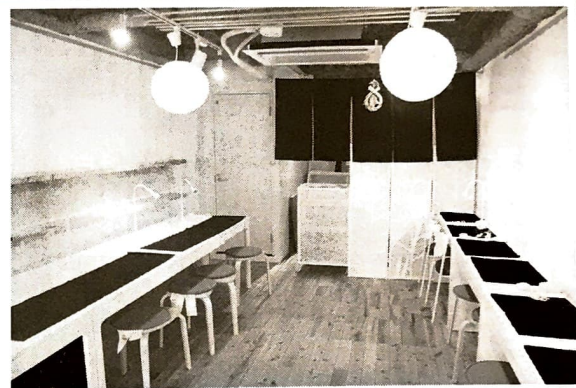


ステイショナー 店舗拝見

鎌倉はんこ

神奈川県鎌倉市御成町 5-6-1A

代表 = 月野允裕 氏



店舗の向かい側に設けた体験スペース

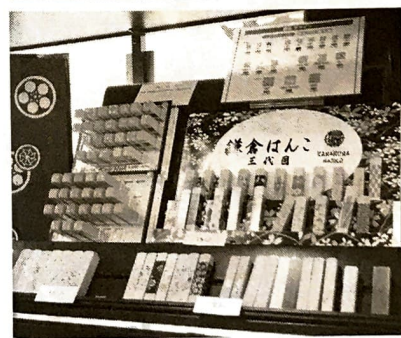


「押印」の意味って幅広いんです。けれどひとまとめに『脱はんこ』と唱えられてしまう。行政が進めている押印の見直しについて、月野さんはどう話す。

鎌倉駅の南側に位置する商店街「御成通り」。通り中ほどの道を曲がると、手作りの彫刻印鑑を扱う「鎌倉はんこ」が店を構える。2015年にオープンした同店ではこの冬、向かい側のビルに新たなスペースを設け、はんこ作りの体験ができるサービスを開始させた。代表の月野允裕さんは関西で続く印章店の3代目。このサービスを行う理由は、主に「脱はんこ」の動きにある。



販売店舗内の様子。およそ100種類の印鑑ケース、50種類の素材を扱っている

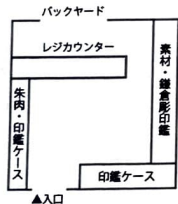


「鎌倉彫印鑑」



月野允裕(つきのみつひろ)氏 関西で続く印章店の3代目。1979年生まれ、41歳。IT企業に10年勤めた後、大阪の実家に戻り独立を決意。2015年、前職時代に馴染みのあった鎌倉の地に同店をオープンした。

【店内見取図】 (販売店舗)



月野さんは「はんこは国民のほとんどが持っているもので、日本人のアイデンティティのひとつだと思ふ。海外のサイン文化との違いなどを伝えるような、教育の場にならしたい」と話す。

「はんこの意味」伝える役目 手作り体験、工芸品コラボも

は、その「意決定の重要度」も場合によって異なる、と月野さんは解説する。

自分たち印章店の役員だと思つたんです。クラフト需要の高まりも追い風となり、手作り体験を行おうと決めた。

国の行政をはじめ、地方自治体、企業などでも押印の見直しとデジタル

体験の内容は落款の彫刻、認印や表印の作成、また子ども向けにはスタンパ作りなど、若者男女

荷物の受け取りなどで行う「確認」の行為として、また結婚や離婚など人生の節目に「意思の担保」として、さらには銀行などで必要となる「本人確認」の役割もある。これに加え、「意思の担保」として使われる時に

化が進められている昨今、「私自身もデジタルの恩恵は十分に受けています。デジタル化で社会が良くなるなら大いに賛成です。でもその中で、はんこならではのメリットや、押印」の意味をきちんと考えて伝えていくのが、この役割を担う内容も盛り

用意している。作るはんこの種類によって値段は変わるが、価格は3000円程度からで、1時間前後での体験を予定している。さらにははんこを彫るだけでなく、はんこの種類やその歴史、はんこの役割を学ぶ内容も盛り

入れた印鑑の販売を開始した。発注を受けてから制作には4カ月以上かかり、1本税抜2万5000円からと高価だ。しかし初回30本をすでに販売し、現在は追加で30本の注文を受けている。

さらにデジタルとはんこの融合も構想する。「はんこの内部にデジタル機能を持たせ、押印の情報が残るようにしてはどうか」、「もつと持たせが進歩したとき、はんこを鍵として活用できるのでは。」

月野さんは「はんこの未来は、まだまだあると思います。なんでも欧米の真似をするのではなく自分たちならではの文化として本質を考え、伝えていきたい」と話した。

▽営業時間 午前10時30分～午後6時
火・水定休、ほか不定休(完全予約制)
▽従業員数 11人
▽平均客単価 1100円
・総印3万円から

実際の体験募集はこれからだが、試験的にははんこ作りを行つた人からは「はんこは身近にあるのに自分で作るのが難しいもの。自分で作る」と愛着がわく」と前向きな声があった。

はんこ作りの体験以外にも、月野さんははんこの未来を模索する。2020年10月には、地元の商品「鎌倉彫」を取り